

「夢を育み、感動・笑顔・歌声あふれる学校」

学校教育目標

おおらかで、たくましく
進んで学ぶ子
地域とともに生きる子

新座市立東野小学校

令和5年3月1日（水）

TEL:479-7280 FAX:482-6794

HP:<http://www.c-niiza.ed.jp/e-higashino/>



東野小学校 だより 3月号

「むごい教育」の本当の意味

校長 金澤 勇一

立春を過ぎた後も寒さが厳しい日が続きましたが、春の足音がはつきりと聞こえてきました。三寒四温という言葉は、本来は冬の気象の特徴として使われてきた言葉ですが、日本では春先の気象の変化を表す言葉として使われてきています。校庭の桜の木も、かわいらしい芽を膨らませてきています。

3年ぶりに実施できた、6年生の社会科見学では、国会議事堂前で写真撮影ができました。他の学年でも、積極的に校外学習を行うことができました。1年前の3月4日に行われた「6年生を送る会」は、オンラインで行われ、画面を通じて各学年が6年生への感謝を伝え、6年生も学校・在校生・保護者・教職員への感謝と、これからの決意などを発表してくれました。今年の「6年生を送る会」は、6年生への感謝の気持ちが直に伝わるように、学年ごとに対面式で発表することとなりました。きっと素敵な会になることでしょう。また、「卒業証書授与式」では、できる限りマスクを外して行えるよう準備しています。少しずつですが、新しい生活様式の中でも、積極的に学習活動ができる事が実感できます。



さて、戦国時代、駿河国(今の静岡県)の今川義元は、竹千代(後の徳川家康)を人質にとりました。義元は家来に対して、「竹千代には、むごい教育をせよ。」と命じました。義元の考えを知らない家来は、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなしで武術を教え込む生活をさせました。

これを聞いた義元はたいへん怒り、次のように言ったそうです。
「人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸あふれるぜいたくなご馳走を好きなだけ与えてやれ。寝たいと言ったら、いつでもいくらでも寝かせてやれ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。学問が嫌だと言うならやらせるな。何ごとも、好き勝手にさせたらよい。」

最後に、今川義元はこう言いました。「そのようにすれば、たいていの人間はだめになるから。」
この話から、教育において何が大切かを考えることができます。ぜいたくや甘やかしは、必ずしも子どものためにならず、辛抱したり我慢したりすることを体験させることにより、子どもはたくましく伸びていきます。自分の思い通りにならない経験を積んだり、好き嫌いに関係なく物事に取り組みせたりしていくことも、困難を乗り越えて生きていくうえでの糧となっていくます。

「かわいい子には旅をさせよ」とか、「獅子は我が子を千尋(せんじん)の谷に落とす」という言葉もあります。獅子は生まれたばかりの子を深い谷に落とし、這い上がってきた生命力の強い子どものみを育てるといふ言い伝えから、本当に深い愛情をもつ相手にわざと試練を与えて成長させるというような意味もあります。愛情における、優しさと厳しさは表裏一体のものであり、相手をいとおしく思う強い気持ちがお互いに感じられることによって、結びつきも強くなります。

子どもたちが生きていく未来は、科学技術がさらに発展し、今まで人が担ってきた仕事を人工知能(AI)やロボットが行う時代で、すでに実用されてきています。この時、人に求められるのはどのような力なのか、そして、そうした力を身に付けていくために、どのような努力が必要になるのか、考えていってほしいと思います。卒業生が、どんな思いや願いを抱いて未来にはばたいていくのか、これからの子どもたちの成長を楽しみにしています。

東野小学校は、来年50周年を迎えます。今まで保護者や地域の皆様、関係の多くの皆様のご支援やご協力によりまして、学校づくりを進めてくることができましたことに、お礼を申し上げます。これからも子どもたちが、さらに学校に愛着を持ち、保護者、地域の皆さんにとっても誇りに思える学校となりますよう、今後とも力を尽くしてまいります。1年間、ありがとうございました。

